

日本国際経済学会関東部会 2001年1月29日(土) 日本大学

新春特別シンポジウム『2011年の世界経済と日本：展望』

「WTO と世界貿易体制の課題、ドーハ・ラウンド」(備忘録)

池間 誠

環境：グローバル化の進展・深化・多極化、加盟国の拡大・多様化

WTO：相互的で互恵的な取り決めの締結で、関税その他の貿易障害を実質的に軽減し、国際貿易関係における差別待遇を廃止することによって、多角的で無差別な自由貿易システムの確立を目指している。

結論：環境の変化がWTOを変容させ、改革を求めている。

1. ドーハ・ラウンド

2001年11月、交渉開始、「4年内」の大枠合意を目標。現在も継続交渉中。事務レベル協議を2011年3月末までに完了し、同年中の妥結を目指す。現在開催中のダボス会議で非公式G20閣僚会議で協議予定。153カ国。中国、12月11日正式加盟。

2001年9月11日同時多発テロ、貧困削減、「ドーハ開発アジェンダ」

2. シアトル閣僚会議(1999年11月30日－12月3日) 決裂の意味

「四極(Quadrilateral or Quad)」(カナダ、EU、日本、米国) 中心交渉方式の終焉。

不透明なプロセスに対するアフリカ・中南米途上国55カ国の抗議声明。

ドーハ・ラウンド交渉、「G7」(日本、米国、EU、オーストラリア、インド、ブラジル、中国(2008年初参加))が交渉の中心。集団指導体制。強力なリーダー不在

3. 2008年7月閣僚会合決裂

7月21日－30日、最長の交渉。20項目中18項目、ほぼ合意。「特別緊急輸入制限措置」(2004年に導入決定)の発動条件でインド・中国と米国対立。綿花。

一括受諾のため、決裂。

「農業分野で350億ドル、鉱工業分野で950億ドルの関税引き下げ効果を逃した」(ラミー WTO 事務局長)

9月、リーマン・ブラザーズ破綻。金融危機勃発、世界同時不況。

4. 交渉分野拡大・深化

関税交渉(市場アクセスの交換)：重要性の低下？

社会システムでの相互主義？

統合生産チェーンの拡大：輸入は輸出にとって不可欠。The "Made in the World".

5. WTOの役割変化

自由貿易の推進機関→経済ブロック化に対する砦→保護主義に対する砦。

"With its global Membership, comprehensive rules, and "world trade court", the WTO is more central than ever to international economic relations." (Pascal Lamy)

6. 展望

G20指導体制。「ロシアのWTO加盟実質交渉を2011年中に完了し、12年春に正式承認」(『日本経済新聞』2011年1月19日)

事務レベル・大使・閣僚。"In my view, good international governance is not about globalizing local problems, but localizing global problems." (Pascal Lamy)

①

〈外務省経済局〉

多角的貿易体制: GATTからWTOへ

2大原則

- 最恵国待遇: すべての加盟国に同等の貿易条件を与えること。
- 内国民待遇: 輸入品を国産品と同様に扱うこと。

世界経済の発展

「ラウンド」と呼ばれるすべての加盟国が参加する貿易交渉を通じて、貿易自由化をはかることで、世界の経済発展・拡大を進める。

「法の支配」の確立

WTOは、モノの関税率からサービス、知的所有権などの分野にルールを拡大。紛争処理システムにより、各国の一方的措置を防止。

